

令和8年度 学校評価		
担当(項目)	重点目標及び具体的方策	留意事項
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな言語力、基礎学力の向上を目指し、自ら学ぼうとする態度を養う。 ○コミュニケーション手段を適切に選択や活用し、集団や社会に参加する力を育てる。 ○健康で安全な学校生活の充実を図る。 ○学校全体の多忙化解消をさらに推進し、子供たちの教育活動の充実を図る。 	
幼稚部	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育要領の5領域の内容を踏まえ、幼児の育ちを総合的に捉えた目標設定による教育活動を行う。 ・幼児一人一人の聴こえや発達の状況を的確に把握し、発達課題に応じた適切なコミュニケーション環境を整える。 ・幼児の心身の状態を的確に把握し、安心して活動に集中できる関わりを行う。 ・AIとの対話を活用し、活動の目標設定や指導上の留意点を効率的に整理することで、指導の質の向上と業務の円滑な遂行を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいが「指導したい内容」ではなく、「幼児に育てたい姿」として明確になっているかを意識する。毎週の保護者懇談で、5領域に基づいた説明を行う。必要に応じて、予定表にも明記する。 ・聴こえの状況だけでなく、認知・言語・社会性など発達全体との関連を踏まえて支援を行う。音声、手話、指文字、視覚的支援など、複数の手段を柔軟に組み合わせ、理解と表出を支える環境を構成する。幼児が「伝わる」「分かる」経験を積み重ねられるよう、成功体験を大切にしたり関わりを心掛ける。 ・体調や情緒の変化を日常的に把握し、無理のない活動参加を促す。幼児の気持ちに寄り添い、自分から取り組もうとする意欲を引き出す関わりを大切にする。 ・AIからの助言は仮説として捉え、最終的な判断や指導内容は教師の専門性に基づいて決定する。短時間で要点を整理するために、目的や条件を明確にして対話を行う。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を目指す。 ・自立活動の実態把握と評価を適切に行う。 ・主体的に行動するための学習場面の設定を行う。 ・積極的に情報を発信し、信頼される学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育指導(学習目標)と児童の評価を連携させ、児童の学習のみならず、指導者の指導改善に心掛ける。 ・「6区分27項目」を意識し、生活全般における学習上及び生活上の困難の把握や改善を具体的な記述で表す。 ・学習場面における自己選択や自己決定を大切に、児童の主体性を伸ばす指導を心掛ける。 ・ブログやお知らせを活用して情報を発信し、地域や保護者との対話を通して理解を得ながら実践を進める。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の指導と評価の一体化を図ったり、実態に合わせた学習環境を整えたりして、主体的に学ぶ態度につながる。 ・異学年や実社会の人と接する機会をもつように学習場面を設定し、コミュニケーション力の向上を図る。 ・積極的に情報を発信し、保護者や地域の人への理解及び連携を推進する。 ・業務の精選をして情報や教材を共有することで、教育活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において目標を明確に提示し、生徒自身の評価活動を通して、主体的に学ぶ力の育成を図り、基礎学力の向上を図る。また目標及び評価から授業改善につなげる。 ・実態に応じた学習環境の中で、意図的に生徒が自己選択・自己決定する場面を設定する。 ・異年齢の人と関わる機会を適切なコミュニケーション手段を考へる一助とする。 ・ブログやお知らせ等を活用して情報を発信して理解を得て実践を進める。 ・ICT機器を活用し、効率化を図ることで教育活動の質の向上につなげる。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を円滑に送ることができるための学力と生活力の伸長を図る。また、そのために必要な自分から学ぼうとする姿勢や、設定した目標に向かって取り組み続ける意欲を育てる。 ・生徒一人一人が、互いの気持ちを汲み取りながら接することができる、暖かな雰囲気のある部づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた指導計画と目標を設定する。また、国語や数学、家庭科、保健など、複数の授業でつながりを持ちながら伸長を図る。 ・地域の方々や他校生徒との交流を行い、自分から話題を見付けて話し掛けるように促す。 ・「考えを押しつける」ことではなく、「相手の気持ちに近づこうとする意識」の大切さを部の集会等で視覚的に伝えていく。
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログや情報媒体(マチコミ、掲示板など)を活用して必要な情報が確実に伝わるよう、情報発信を的確に行う。 ・PTA活動を通じて、子供たちの教育活動の充実が図れるよう、協力して運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載の内容や頻度などを保護者のニーズを踏まえて検討し、ブログやHPで学校の教育活動の様子を伝えていく。 ・保護者や関係職員が活動しやすいよう活動時間の調整や予算配分を計画し、実践する。

<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちのニーズに応じた学習支援体制を整える。 ・教育課程の見直しを定期的に行い、実態に即した改善を行う。 ・校内支援教室を利用したり通学に困難さがあつたりする子供たちの状況を把握し、該当する部を中心に学習支援の方針を検討し実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な視点を持ち、系統性・発達段階に配慮した指導内容の改善を図る。 ・学習支援が過度な負担にならないように部内で検討し、家庭と連携をしながら進める。 ・子供たちの状況の変化に細心の注意を払い、柔軟に対応をしていく。
<p>生活指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルやトラブル回避について正しく理解させるとともに、子供たちが自ら考え判断し、危険から身を守る力の育成を図る。 ・食育と各教科の学習を関連付けることで、食への理解と望ましい食習慣の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関によるSNS教室や、子供の発達段階に応じた支援を実施し、実際に起こり得る事例を通して具体的に学べるようにし、日常の学校生活や家庭での行動に生かせるようにする。 ・給食と教科を関連付け、発達段階に応じて無理のない形で食への関心と理解を深める。
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供一人一人の障害特性・興味・強みを的確に把握し、社会参加と自立した生活につながる進路選択を支援する。 ・校外学習、職場体験などの多様な体験活動を通じたキャリア形成を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの意思決定を大切に、希望を丁寧に受け止めながら、将来の選択肢を広げる支援を行う。 ・本人、保護者の不安や疑問に寄り添い、安心できる進路決定を支援する。
<p>自立活動・研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動6区分27項目に即した指導支援を行う。 ・年齢や発達に合わせたコミュニケーション指導に取り組む。 ・子供が安心して学べる学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新様式の「自立活動個別の指導計画」を活用し、適切な実態把握、目標設定、支援内容の検討、教育実践、評価や振り返りを行う。 ・必要に応じて生成AIを活用して支援内容を検討し、最終的な判断は子供の実態と照らし合わせながら教師が行うことを心掛ける。 ・日常会話等において相手の気持ちや状況に合う正しい日本語でのやりとりを行う。 ・児童生徒自身が生成AIを適切に活用し、言語力やコミュニケーション力の向上を目指して主体的に学習に取り組めるようにする。 ・研修などを通して、生成AIを用いた学習指導のスキルを高める。 ・特性に応じた心身の安定を図るため、気持ちに寄り添った支援や環境整備等を行う。
<p>いじめ防止等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが相談しやすい環境づくりやリラックスできる場所の提供など、早期発見、早期対応できるように校内体制を構築し、子供たちが楽しいと思える学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業も含めた学校生活全般において、子供たちが楽しいと思える環境づくりを行う。その際には、個の実態に応じた環境づくりに心掛ける。 ・個人のプライバシーには十分留意する。
<p>勤務時間の適切な管理及び長時間労働による健康障害防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜言葉を掛けたり様子を見たりなどして、教職員の体調を確かめながら、早期に対応できるようにする。 ・業務改善やICT機器の活用、会議の短時間化などを推進し、効果的な時間の活用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常や面談等での様子を確認して、早期に対応できるようにする。 ・教職員の意見を尊重しながら、具体的な方策を検討していく。
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>		<p>幼稚園、小学部、中学部、高等部、校務分掌</p>